

運行事業者及び行政ごとの意見・対策案

■奈良交通株式会社	
No. 1	ラストワンマイルへの対応策
<p>路線バスの運行経路について、朝夕の主に現役世代が利用する時間帯と、日中の主に高齢者が利用する時間帯（オフピーク時）の運行経路を検討する。</p> <p>【実施例】</p> <p>①あすか野団地にて実証実験後、地元自治会の精力的な利用促進活動の結果、オフピーク時、団地内を周回する本格運行に移行</p> <p>②奈良市三松ヶ丘地区にて実証実験後、地元自治会の精力的な利用促進活動の結果、オフピーク時、団地内を周回する本格運行へ移行</p> <p>③香芝市白鳳台地区にて自治会からの依頼を受け、日中の王寺駅発便のみ団地の奥の道路まで進入する実証運行を開始</p>	
No. 2	ICカード方式の導入
<p>仕様によるが、ICカード方式への変更によりOD調査（起終点調査）が可能になり、加えて、現制度の生きいきクーポンでは、払い戻しにより換金が可能との問題の解消に繋がると考えられる。（ICカード方式の導入には、初発経費・運用費用が必要となりますが、どのような運用方法・仕様にするのかによって費用額は変動します。）</p>	
No. 3	運転免許証返納者に対する支援策
<p>奈良県警察高齢者交通安全支援事業にて運転免許証返納者を対象として、奈良交通株式のゴールドパス6ヶ月券を2回のみ無料配布頂いているが、継続した支援策を検討する。</p> <p>※ゴールドパスとは、奈良交通・エヌシーバスの路線バス（一部路線を除く）に1乗車につき大人運賃の半額で乗車頂ける定期券のこと。（3ヶ月：5,500円、6ヶ月：8,500円）</p>	
No. 4	総合交通マップの作成（市内全域の鉄道、路線バス・コミュニティバスを記載したマップ）
<p>現在、コミュニティバスの路線図・時刻表に路線バスの時刻表（生駒駅、東生駒駅）を掲載しているが、市内全域の鉄道、路線バス・コミュニティバスを記載した総合交通マップの作成を検討する。通勤時間帯を中心に市内各所で渋滞が発生しており、交通行動の変化を促す目的として、公共交通網の周知、転入者や市内事業所への配布等に活用できると考えられる。</p> <p>なお、作成費用については、広告を募り収入を得ることが出来れば、継続した運用に繋がると考えます。また、奈良交通株式会社の路線バス検索サイト「奈良バスなびweb」のQRコードを掲出することにより、より便利に検索することができる。</p>	
No. 5	市内全ての公共施設HPのアクセス欄にアクセス方法の記載
<p>市内全ての公共施設HPのアクセス欄に、鉄道の記載はあるが、路線バス、コミュニティバスで行ける場合は、アクセス方法に追加して頂きたい。施設を利用される方にとって、記載になればバスを利用される可能性は無いに等しいと考えられる。</p>	

■公益社団法人 奈良県バス協会	
No. 1	市内公共交通の情報を発信する取組み
現在の「コミュニティバス『たけまる号』 / 奈良交通 時刻表」に、市内全域の路線図及び時刻表を加えた総合的な案内資料を作成し、配布する。	
No. 2	コミュニティバスの利用促進を図る取組み
『たけまる号』お買い物ポイントカードを発行する。 ⇒乗車ごとにポイントを付与し、一定のポイントにより市内の商業施設等での特典（例えば、割引お買物券、記念品の進呈等）を提供する。	
No. 3	公共交通利用者意識の醸成を図る取組み（バスの乗り方教室等の開催）
市内の児童及び生徒を対象としたバスの乗り方教室・高齢者を対象とした車いす等での利用（乗車）体験会を開催する。	
No. 4	公共交通利用者意識の醸成を図る取組み（絵画コンクールの実施）
市内の園児及び児童を対象として、バスをテーマ（例えば、「わたしたちのまちのバス」にした作品を募集する優秀作品を表彰（例えば、協議会会長賞、市長賞等）し、市内の施設に展示及び広報誌に掲載する。）	

奈良県 県土マネジメント部

No. 1 【事例】マイカー相乗り：名古屋大学・豊田市・足助病院・地域住民共同プロジェクト

住民同士が支え合い、高齢者などの移動を助けるマイカー相乗りの仕組み。タブレットを活用して、相乗りのリクエスト（依頼）とオファー（提供）のマッチングを行う。

タブレットの紹介

- 1 同乗のお願いを登録
- 2 お願いの確認・同乗の承認を登録
- 3 乗車予約が成立
- 4 出発地にお迎えに行く
- 5 目的地に到着

「名古屋大学・豊田市・足助病院・地域住民が共同で取り組む たすけあいプロジェクト」
<https://asukeaicar.com/information/mb.html>

No. 2 【事例】タクシーの相乗り：名古屋大学・豊田市・足助病院・地域住民共同プロジェクト

タクシーを何人かで利用することで、利用者負担を軽減する。利用できるのは、事前に登録された会員のみである。出発地は同じ場所でも問題はない。利用料金は、均等割りではなく、利用者それぞれの出発地と目的地までの移動距離に応じて按分する。

●利用できる条件

- ・足助病院の患者が対象で、病院が運営するタクシー事業の事前申込が必要。
- ・タクシーの予約は専用カウンターかたすけあいプロジェクト事務局にて行っている。
- ・利用するには、「たすけあいカード」が必要となる。

従来のカード **新規カード**

「名古屋大学・豊田市・足助病院・地域住民が共同で取り組む たすけあいプロジェクト」
<https://asukeaicar.com/information/mb.html>

No. 3 【事例】里モビLIFE プロジェクト（里モビ）

豊田市は、名古屋大学などと共働で、「高齢者が年齢、地域、個人差なく生き活きと生活し活動できる、持続可能な高齢社会の実現」を目指す「あすけあいプロジェクト」に参画しており、その一環として、中山間地域における高齢者の日常移動のために、地域住民とともに超小型モビリティの改造や活用を行う「里モビサークル」に取り組んでいる。

「里モビサークル」では、現在、24 台の超小型モビリティ（里モビ）を高齢者が日常の移動で運転しやすいように改造や活用（左下図）をしており、その中の1台が2人乗り超小型モビリティとして車両登録の認可を取得（右下図）

【一人乗り超小型モビリティ】 【二人乗り超小型モビリティ】

「とよたの里モビLIFEプロジェクト」
<https://tyev.jimdo.com/>

スピード出にくい超小型車、高齢者事故受け普及検討

全国で高齢ドライバーによる交通事故が相次いでいることを受けて、経済産業省は27日、スピードの出にくい「超小型車」など多様な移動手段の普及に向けた有識者会議の初会合を開いた。開発コストの削減など、課題解決に向けて年内をメドに報告書をまとめる。

超小型車は自動車メーカーなどが開発を進めており、軽乗用車よりも小さい1～2人乗りの4輪車や3輪の電動自転車などが想定されている。一部は市販されており、小回りが利くため高齢者でも運転しやすく、都市部の渋滞解消にもつながると期待されている。

有識者会議には、調査研究機関の研究者や地方自治体の首長、自動車メーカーの担当者ら約15人が参加し、1台100万円前後と割高な価格の引き下げなどについて議論する。

世耕経産相は会議で、「小型車など多様な選択肢を普及させることが有効な解決策になる」と述べ、交通安全を確保しながら、高齢者や地域の移動手段を確保する重要性を指摘した。

2019年8月28日 読売新聞
 「スピード出にくい超小型車、高齢者事故受け普及検討」

■国土交通省 奈良運輸支局

No.1 グリーンスローモビリティ※（略称：グリスロ）

環境への負荷が少なく、狭い路地も通行が可能で、高齢者の足の確保や観光客の周遊に資する「新たなモビリティ」としてグリーンスローモビリティ（時速20km/h未満で公道を走ることが可能な4人乗り以上の電動パブリックモビリティ）が期待されている。

現在は、下表に示す地域での活用に向け、実証実験が計画されている。

提案者	事業名称
千葉県 松戸市	全世代型地域共生モビリティ実証事業 with 都市型介護予防モデル松戸プロジェクト 【郊外住宅地における介護予防・健康づくりを推進する定路線型モビリティ】
兵庫県 明石市	地理的交通不便地域の生活を支える次世代モビリティの導入実験 【標高差のある住宅地と生活拠点・バス停を結ぶ定路線型モビリティ】
兵庫県 朝来市	坂道の住宅団地を駆け巡るラストワンマイルモビリティ 【中山間地域の住宅地におけるシルバー人材が活躍する定路線型モビリティ】
岡山県 笠岡市	スローな空間・スローな乗り物 ～期待に応えるモビリティ@笠岡諸島～ 【離島の住民の移動と観光周遊手段を兼ねるデマンド型・定路線型モビリティ】
山口県 宇部市	“コンパクトシティに向けて” どこでも入れる「地域の足」まちなかグリーンスローモビリティ実証事業 【中心市街地における高齢者の移動手段としての定路線型モビリティ】
宮崎県 宮崎市	中心市街地の回遊性向上による波及効果を目指した新モビリティ実証調査事業 【駅とまちなかをつなぎ、市街地を活性化させる定路線型モビリティ】
宮崎県 延岡市	自律性の高い集落形成を後押しする新モビリティ実証事業 【公共交通の空白地である三角州地帯の生活を支えるデマンド型モビリティ】

【5つの特長】

- ①Green・・・CO2排出量が少ない電気自動車。家庭用コンセントで充電可。GS撤退地域でも運行可
- ②Slow・・・時速20km未満なので観光にぴったり
- ③Safety・・・速度制限で安全。高齢者も運転可
- ④Small・・・小型なので狭い道でも問題ない
- ⑤Open・・・窓がない開放感が楽しい

【事業化】乗合バス事業、タクシー事業、自家用有償旅客運送で運行




【活用場面】

- ①**地域住民の足として**
 - 1) バスが走れなかった地域
 - 2) 高齢化が進む地域
 - 3) お年寄りの福祉増進
 - 4) 既存のバスからの転換
 - 5) 将来的に自動運転可
- ②**観光客向けのモビリティとして**
 - 1) ガイドによる観光案内
 - 2) プチ定期観光バス
 - 3) パークアンドライド
 - 4) イベントでの活用
- ③**ちよこつと輸送**
 - 1) 駐車場から施設まで
 - 2) 施設から施設まで
- ④**地域ブランディング**
 - 1) 「地域の顔」として







No.2 【事例】タワラモトンタクシー：奈良県 磯城郡 田原本町

奈良県 磯城郡 田原本町では、日常生活の移動に制約のある方を対象に、通常タクシー初乗り料（小型車660円、中型車680円（※H31.2.20時点））金を助成するタクシー利用券を、申請により交付している。田原本町に住所を有する方で、要件に該当する方（下図）は、申請を行うことにより、登録証と利用券が配布される。

■対象者と発行枚数（一年度あたり）

※利用は本人に限ります。（本人以外の同乗は可）

対象者（下記のうちいずれか1つ選択）	発行枚数
70歳以上の人	24枚
身体障害者手帳1級又は2級を有する人	12枚
療育手帳A1又はA2を有する人	12枚
自主的な移動が困難であることを証する書面を有する人（※）	12枚
出産予定があり母子健康手帳の交付を受けた人	24枚
就学前の児童	24枚

（※）障害・疾病などにより移動が困難（2カ月以上にわたり継続することが見込まれるもの）であることの医師の証明書を提出してください。証明書の取得費用は本人負担になります。
田原本町医師会の会員である医師・医療機関で所定様式による証明書の発行料金は、町との業務提携協力により1000円（税別）となります。


■利用方法

タクシーの配車・乗車時

1. タワラモトンタクシー利用券を使う旨を伝える

支払時

2. 登録証と利用券（切り離さない）を乗務員に渡す
3. 乗務員が利用券1枚を切り離し、登録証と残りの利用券を受け取る
4. 運賃から初乗り運賃を差し引いた金額を支払う



■利用できる日時

月～土曜日 午前8時～午後6時（日曜日・祝日・12/29～1/3除く）

■利用できる区間

